高月院

高月院は、六所山の麓、松平郷の東端を見下ろす場所にある浄土宗の寺院である。松平家ゆかりのお寺であり、初代当主・松平親氏（伝 1394 年没）の時代から地域の中心的な仏閣であった。

1367 年に松平郷に初めて土地を開墾した在原家に代わって、旅の僧侶が「寂静寺」の名で創建したとされる。1377 年には高月院と改称し、親氏が阿弥陀如来像を寄進し、諸堂などを建立して寺を拡張した。これにより、高月院は松平家の菩提寺となり、何世紀にもわたって繁栄することになった。

松平家の子孫である徳川家康（1543-1616）が天下を統一し、徳川幕府（1603-1867）が成立すると、高月院は大きな寺領をもらった。かつての門や本堂は 3 代目徳川将軍・家光（1604-1651）が寄進したものと言われている。その後も徳川将軍たちは先祖の墓を守るために高月院を援助し続けた。そのお墓は、境内の一番奥にある小さなテラスにあり、歴代住職のお墓より少し高い場所に位置している。